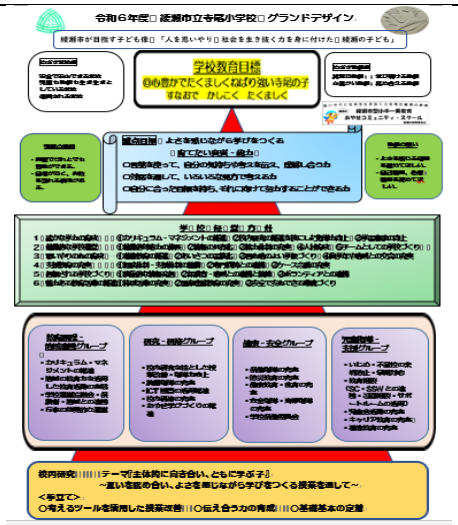
令和6年度　綾瀬市立寺尾小学校　学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	（学校教育分野）　人を思いやり　社会を生き抜く力を身に付けた　綾瀬の子ども
学校教育目標	心豊かでたくましくねばり強い寺尾の子
学校経営方針 （グランドデザイン）	
今年度の重点目標	○言葉を使って、自分の気持ちや考えを伝え、理解し合う力 ○対話を通して、いろいろな見方で考える力 ○自分に合った目標を持ち、それに向けて努力することができる力

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1　学習指導	学校は、「進んで学ぶ子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	児童については肯定的な回答がおよそ９割を占め、児童が進んで学習に取り組む姿勢が少しずつ定着していることがうかがえます。対して保護者については肯定的な回答が８割を切っており、児童の学習の様子や学校での学習の取組をこれまで以上に積極的に発信していく必要を感じています。また、教職員については全教職員が肯定的な回答をしており、校内研究等を通して、教職員一人ひとりが児童の主体性を育む授業づくり、授業改善に取り組んでいることが、学級・学年経営の充実につながってきていると感じています。私たちはこの意識を保ちつつ、児童の生きる力の育成に努めます。
2　教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	９割以上の児童、保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答しています。このことにより、児童自らがめあてをもち、学校行事に意欲的に取り組んでいる様子が分かります。また、それぞれの行事で「何を学んだのか」という振り返りの時間を大切にし、行事を通して身に付いたことを明らかにするとともに、今後の教育活動に生かしていくよう努めます。
3　児童・生徒指導	学校は、「すなおで思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。	「そう思う」「ややそう思う」と回答した児童、保護者が９割を超えています。友だちに対して思いやりの心をもって行動することを大切に思い、それを実行していることがうかがえます。また、すべての教職員が肯定的な回答をしています。これからも児童一人ひとりの理解に努め、自分や友だちのよさや違いを認め合える子の育成に向けて、教職員で協力していきます。
4　児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	9割を超える児童が「楽しい」と回答しており、友達や先生との学校生活に満足していると思われます。しかし、「楽しくない」と回答した児童も1割弱おり、不安や悩みを抱えていることが推測されます。今後も、一人ひとりの児童を大切にしながら支援体制や職員の協力体制をさらに充実させ、すべての児童が満足して過ごすことのできる学校を目指していきます。
5　児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見･再発防止のための取組を行っている。	7割を超える保護者が肯定的な回答をしていますが、否定的な回答、「わからない」という回答が3割弱ありました。引き続きスクールアンケートや道徳教育等を通したいじめへの予防的取組、いじめの早期発見や発生時の対応、再発防止に、教職員が一つになって取り組んでいきます。また、今後も学校だより等で学校の取組についてお知らせしていきます。
6　保健管理	学校は、「たくましくねばり強い子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	保護者については肯定的な回答が９割を占めているのに対し、児童については８割を切る結果となっています。学校の休み時間等の過ごし方については基本的に自由ではありますが、児童の思いを尊重しながらも外遊びや定期的に体を動かすことを促していきたいと考えています。また、運動会等の学校行事を中心に、児童のがんばりが保護者の方に伝わっていることを感じます。各教科等の学習や各種行事での取組をこれまでと同様に大切にし、何事にもねばり強く取り組む児童の育成に努めたいと考えています。
7　安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員は高い意識をもって取り組んでいることがうかがえます。日時を知らせずに実施する避難訓練や交通安全教室などの「命を守る」学習に力を入れて指導をしてきました。また、月に１回、校舎内外に危険個所はないかを全職員で点検しています。これからも児童への安全指導の充実と環境整備に、しっかりと取り組んでいきます。
8　支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	個々の児童に応じた支援の工夫をすることについて、教職員は高い意識をもって取り組んでいます。これからも、児童指導・支援グループを中心に職員で情報を共有し、必要に応じて様々な方と連携を図りながら、児童の実態や課題を把握し、個に応じた支援体制の充実に努めていきます。
9　組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	グループ会議、企画会議、カリキュラム・マネジメント会議、学年代表者会議を定期的に行い、円滑な学校運営に努めました。各グループが担当する行事や取組を計画する際には児童に身に付けさせたい資質・能力を意識し、全職員が共通理解のもと実施できるよう協議しています。また、カリキュラム・マネジメント会議では、学期ごとの反省をもとに学校教育目標の具現化や取組の改善を図っています。今後も、教職員一人ひとりが責任と自覚をもち、児童のために学校運営を行っていきます。
10　教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	学習指導要領の内容や児童の実態をしっかりと把握し、それらに基づく指導の在り方についても研究を通して研修してきました。今年度も、横浜国立大学池田敏和教授をお招きし、算数科の授業力向上を中心に児童が学ぶことについて理解を深めました。算数科はもちろん、他教科にも学んだことを生かして授業改善ができるよう、今後も学習指導の充実を図る研修を計画的に実施していきます。
11　教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	設問８に対する対応と同様、教職員が一つになり、学校生活の中で一人ひとりを大切にした指導に努めていきます。また学校や教職員の指導をご理解していただけるように、学校だよりや学年だより、懇談会等で取組を発信するよう引き続き心がけていきます。
12　情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	９割以上の保護者が「そう思う・ややそう思う」と回答しており、これは昨年度より上回る結果となっています。学校だよりや学年だより等の各種おたより、授業参観や個別面談を通じて学校での児童の様子を知っていただけるよう努めてきた成果かと思います。また、昨年に引き続いて「分からない」と回答している家庭も少数ながらあり言葉の問題や家庭の事情に十分に対応できていないこと等も一因として考えられます。多様性社会となった時代に対応できるようにより一層多くの対応策で取り組んでいきます。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】
・家庭では、漫画よりもスマートフォン等を見ていることが多く、活字に触れることが少なくなり、心配。
・３年生までは学校に図書の時間が設けられているが、４年生になると図書の時間がなくなり、本を借りることが少なくなる。読む機会、活字に触れる機会を設けたい。どうしたら、本を読み、国語力のアップにつながるのかそういうことを話し合う機会があるとよい。
・運動会や図工展など様々な行事を通して、児童は成長し、表現のしかたを身に付けることができたと思う。
・学校は「すなおで思いやりのある子」という学校教育目標に向けて、とても熱心に取り組んでいる。児童・保護者・教職員すべてにおいて、昨年度よりも評価がよくなっているので、それだけ児童や教職員が自信を持って取り組んでいることだと思う。